

ネットワーク構造、電気通信事業の将来像
競争の基本的枠組み
NTT グループの位置付けと公正競争の確保
ユニバーサルサービスの確保
通信主権等の確保
電気通信事業における研究開発体制の在り方
利用者利益の確保方策

読んだことは、読みましたが、考え方の変化がない省庁という
非効率的な人の集団が、管理をしたいという前提が一番問題があると思います。

NTTは、それと同じ気風で運営され、利用者は、眼中にありません、
不良品を売りつけられ、回収をはじめさせるまでに3年もツカかってしまい現在でも、
後でやるといいながらやりっぱなし、そういう現状でNTTと接してきました。
NTTは、いらないと断言します。

このような考えの私でも今の現状を考えたときNTTは、もはや蚊帳の外です。

NTTをどうのという段階は、2年前に過ぎたと思います。
(しなきゃいけないときは、もはや昔話の前)

NTTにからむ問題は、現状、自分達が現在使っている電話番号を NTTの交換機から
その他のシステムに移せるかという一点にかかっています。

言い方を変えれば、インターネット電話でも自分の使っている電話番号を温存したいと言
うことに集約されます。

そうなれば、どの通信回線を使うか、ケーブルテレビかもしれないし、有線放送の
光ケーブルかもしれません。

ここで問題になるのは、天才でない人間がこれらの認可の手続きのよしよし悪しを
判断していると言うことに他なりません。

アメリカが現在の地位を確保した背景には、一人の天才とも言える人にかける経営者がい
たり、それを容認する気風が上げられ
ます。

たった1人の働きで、激変することが許される社会とそうでない日本の差が、ここに来て
明らかになってきました。

天才の考える事を他の人が、良いかどうか判断できるはずは、無いのです。
ここでだめとしてしまうか、市場に任せて、価値を生み出せば、その分野で秀でるか、
市場に判断させることが出来るかにかかっています。

インターネットの世界は、外国と代わりありません。
オープンな世界で、情報が漏れるのは、当たり前です。
法律を守らない国民性の国は、多々あります。

犯罪があっても不思議でないと言うことで、考えなければいけません。
国として、規制をすることは、ままたりません。
あえて欲しいのは、一つだけです、それは、我々が、運営するサイトを
ステップにして犯罪を犯すものがあるという前提で、これらの責任は、
サイトを運営するものには、無いと決めてもらいたいのです。

それと国としてインターネットを運営する上で、ビジネス特許も認めないと宣言し
タイが、為替を鎖国したのと同じ様な行動をとってもらうことです。

そして大企業は、つぶさないと言う法律の撤廃です。

インターンえっとは、個人と大企業が同じスタートラインにつくということに
一番意味があります。

この分野で、主導権を持っても不思議でないと思われたIBMも過去の存在です。

20万円以上の売り上げのあるサイトは、数パーセントに過ぎないと自ら話しながら、
数千万もするシステムを販売しようという姿勢は、NTTとよく似ています。

インターネットは、コストを下げられる、販売にこそ価値があるのです。

NTTのコストの高さは、ケーブルテレビの料金をそのデータ量で、割って
電話回線の通信データ量をかけた値段が、我々がNTTに払う料金の上限になります。

どこの会社に自分の電話番号を置くことが出来れば何も考える必要は、ありません、
いずれ答えは、自動的に決まります。

天才に自由にやらせれば、いいだけの事です。マイクロソフトのようにやりたい放題
やり始めたらばっさりやればいいだけの事です。

自分にコントロール出来ないことを無理にコントロールしようとする人に権限を持たせ、莫大な税金をつぎ込むことが一番問題です。

これを機会に郵政省も出来ないことは、無理せず。管理しようと思わずに人員を減らすときが来ています。

この考えが導入できる頭脳と決断が、あれば、人員は、半分になるでしょう。

正しいリーダーとしての判断が出来るかどうかは、今後責任をとらせる態勢が、整ってくると思われます。

経営者は、失敗には、資産全部が、無くなる事は、一般人の世界では、常識です。

小川 晃
